

第二十二回 明野薪能

〔能に親しむためのレクチャー・ワークショップ公演〕

日時…平成二十七年四月四日(土) 午後四時三〇分始
場所…茨城県筑西市明野公民館大ホール「イル・ブリランテ」

能はおよそ五体、つまり、神、男、女、狂、鬼の題材に分類することが出来ます。能を構成する様々な要素である、面、装束、舞、謡、囃子等の表現を紹介すると共に五体の題材に添った、能レクチャー・ワークショップ型の公演です。

地元青少年による 狂言小舞・大小鼓連調「高砂」待謡

狂言の紹介と実演

囃子の道具紹介

ワキの役割と能の概要と高砂解説

神 高砂舞囃子

屋島の面、装束着付け曲解説
男 屋島舞囃子

羽衣の面、装束着付け曲解説

女 羽衣舞囃子

謡、型の紹介

狂 海士玉之段 仕舞

鬼 石橋素囃子

《出演者》

シテ・地謡	清水 寛二	西村 高夫
ワキ	伊藤 嘉章	北浪 貴裕
安田 登	伊藤 嘉章	北浪 貴裕
狂言	三宅 右矩	三宅 近成
笛	松田 弘之	
小鼓	幸 信吾	
大鼓	大倉正之助	
太鼓	金春 國直	

明野薪能 開催趣意

私たち一人ひとりが自主的な文化を築いていく時、地域の自然や歴史・伝統を活かした独創的な視野に立ち、文化の創造がはかれるよう進めていくことが大切になります。

私たちは、今、生活様式や価値観が多様化するなかで、心の豊かさを求めています。特に将来を担う子どもたちが、日本の伝統芸能に直接触れる体験は、日本の伝統文化芸能に対する誇りや愛着を醸成するうえで大きな役割を果たすものと言えます。

このような中で、自主的な住民参加による明野薪能開催は、地域の文化を創造していく上で、大きな意義を持つものと考え、地域住民の企画・運営・舞台制作によって開催しています。

私たちは、日本の伝統芸能である能・狂言をとおして、地域での文化の創造と、次代を担う子どもたちが舞台で演じることで伝統文化を肌で感じ、感動を体験することを目的とするなかで、創る感動参加する感動観る感動を多くの方々と共有できることを願い開催するものです。

平成二十七年吉月

明野薪能実行委員会 委員長 古田部 光文